

中田かわら版 8 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい 〈80〉

Dance、ダンス、DANCE

荒巻 友子さん 中田踊場

泉区の最東端に立つ 6 階建てのビル「踊場スカイビル」のオーナー 荒巻友子さん。中田小学校に通う子供を通じて出会い、踊場の高台に自宅がある。戸塚からも中田からも上り坂の頂点だ。学校までの距離は子供の足で 30 分はかかるだろうと思いながら 40 年ぶりに自宅を訪ねてみた。

友子さんは群馬県下仁田で 9 人兄弟の末っ子として誕生。親や長兄（24 歳上）の勧めもあり、東京の大学を受験。4 年間、東京在住の長兄の家に居候。大学の研究会に参加した折、卒業した先輩も出席していた。そこで先輩である荒巻家の一人っ子・定仁さんと出会い、卒業後すぐ結婚。中田で両親との同居が始まるも翌年義母（64 歳）を癌で亡くした。数年が経ち義父が脳溢血を起こし 92 歳まで介護をしてきた。まだ 40 代半ばだったが友子さんは腰を痛み医者から手術を勧められるが断り、腰痛に良いと言う水泳の背泳にこだわった。体力もつき始めてから好きな社交ダンスを始めた。



順風満帆の生活であった 39 年前、市の区画整理で戸塚区から泉区が誕生。自宅の東側が境界線となった。また 31 年前には地下鉄ブルーラインの踊場駅の真上に自宅が位置することになり、湘南台まで延伸したのだが荒巻家にとっては簡単には喜べなかった。その話の開設 5 年前に「地下鉄の換気口を自宅の南側を削り設置したい」と横浜市交通局より話があり自宅の山だけが残ることになる。荒巻家の悩みは引っ越しするかこのまま住むか・・意を決して動き出したのは友子さん。ご主人はまだ国家公務員として勤務であったので設計から資金の工面などすべて一人で担当したという。地下鉄の換気口と同じ位置まで山を削り、5 年間かけて見事ビルを完成させたのだ。

1 階にはコンビニ「ファミリーマート」、5 階に友子さんの夢だったダンスホール「スタジオスカイ」を開設。友子さんも指導をしたらと友人に勧められ、講師の資格も取得。「実技と筆記試験は本当に大変でした」と、当時を思い起こししみじみと苦労を語る姿は今の自信に繋がっているようだ。今では友子さんを含め講師の先生は総勢 11 名。曜日を決めてそれぞれが教室を開いている。「講師だから男役も」と、写真のようにデモンストレーションも披露している。発表会は年に 4 回ほど、東京や新横浜のホテルなどで開いているという。

さらに 5 年前から「よこはまウォーキングポイント事業」の〈毎日 8000 歩を目標に〉をクリアし、5 年連続で表彰状を頂いている。友子さんの頑張りに脱帽。

山の頂上だったこの地に建てたビルの屋上からは 360 度見渡せ、素晴らしい景色が一望できることから友子さんは「正月三が日は初日の出を見て頂けるよう、屋上を開放している」と言う。

友子さんの夢は「体の動く限り、社交ダンスを続け、若い人たちに社交ダンスの楽しさを伝えていきたい」である。明るく爽やかに語る笑顔がまた印象的だ。

※昨年は地下鉄戸塚から延伸 30 周年。来年は泉区発足 40 周年を迎える。

（松本 純子）



地域の地球温暖化防止の取組みに一役

中田のキャンペーンソングに「熱い世界」

カントリー&ウェスタン歌手 杉はじめさんが「公認」

中田連合自治会の標語である「一人一人がCO₂を減らす努力をしこの美しい地球をこども達に残そう」に、往年の歌手・杉はじめさん（87歳）が非常に感銘し、作詞作曲しご自身で歌う「熱い世界」を中田連合自治会のキャンペーンソングとして公認してくれました。歌の力で更に地域を纏めふるさと中田に誇りを持てる若者たちを育てることは私達大人の大切な役割であると思い、中田の標語とこのキャンペーンソングを中田から世界に発信させたいと考えています。

「歌手 杉はじめ」と言えば日本のカントリー&ウェスタン界のレジェンドと称されています。1956年プロ歌手としてスタートし、ミッキーカーチス 平尾昌晃 山下敬二郎 ジミー時田等と全国ライブコンサート活動を始め、その後ジャズ喫茶と言う名前が世間で広く知られるようになった歴史に残る「銀座テネシー」の専属歌手として活躍し、特にカントリーバラードでは第一人者としてその名を残しています。昭和40年日本では、菅原洋一さんが歌って大ヒットした「知りたくないの」は、作詞家なかにし礼さんが日本語版でリリースしたカントリーバラードの曲です。そして1969年に現在のホームタウンーズのリーダーとなり、海外ライブでも活躍され日本人初の海外ライブLP盤をリリースし大好評を博しています。



杉はじめさん（左）と井上中田連合自治会副会長（右）

87歳の今でも隔月には新宿のライブハウスで3時間のステージをこなし、往年の多くのファンに親しまれライブ会場はいつも熱気に包まれています。本人は、「100歳まで一切のストレスを持たずに歌い続け、一人でも多くのファンに喜んでもらい、少しでも歌の力で社会のお役に立ちたい」という志を持ち続けたい」と言っています。そしてこの度、地球温暖化防止キャンペーンソング「熱い世界」を作詞作曲され、今の気候変動に対する警鐘を歌に致しました。大自然の摂理が急速に変化し、集中豪雨 最多の台風上陸そして熱波と真夏日等多くの異常気象が見受けられる現状に大変危惧するようになり、次世代の若者たちのために作られた歌であります。

国連のグテーレス事務総長も「地球温暖化の時代は終わりを告げ、地球沸騰化の時代が到来した」と国際社会に警告を発しています。音楽や歌と気候変動というものは、人の心を動かすとても可能性があるものであり、21世紀の主役となる今の若者達と是非、共通認識を持ち、この歌の力で地域が一丸となって問題意識を高める行動ができることを願っています。

（中田連合自治会副会長 井上 昌司）



←「熱い世界」はこちらからお聴きいただけます

編集後記

この夏も暑くなりそうだ……。踊場地域ケアプラザでは中田地区社会福祉協議会と共催で「親子野菜体験塾」という事業を長年実施している。地域の農家さんにご協力いただき畑をお借りし8月末から12月にかけて大根、白菜、ほうれん草など種まきから収穫までを行ってきた。今年から農家さんのご厚意により通年お借りし夏野菜作りを協力者の方と試験的に始めた。野菜づくりにご興味のある方はぜひ踊場地域ケアプラザまでご連絡いただきたい。畑に居ると地球温暖化とこの夏の暑さを殊更に実感する。（嶋）

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員：小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之